マルスはいつも人間に抱きついて来て

腰のあたりまで駆けのぼり、せみのようにとまってニャーッというのです。でもこれは沢山着ている時のこと。ある日かじゅこがパジャマ一枚でうろうろしているときにもマルスはパッと抱きついてニャッーといゝました。

（左図参照）

それ以来かじゅこはパンツをはいてからパジャマを着ることにしました。

はじめは少し変でしたが、いまは引っかき傷が少なくなって喜んでいます。

自然と人間を考える

どうぶつ会議会報

1981.1.1.
かじゅこ松島
八鍬真佐子

自然を守れ!!

人間の増加は地球を滅ぼす

日本ねこ委員会議論白熱中

開催中の会議速記録より、騒然とする場面も含めてお伝えいたします。

(委員長)

人間の増えすぎが諸悪の根源であることはわかりましたぷい。また増えただけでなくますます人間が凶暴になっていることについて御意見を承わりたいぷいぷい。

ギャオーーッ。日本狼のみなさんをはじめ、鹿、かもしか、猿、きつね、狸、兎、もぐら、とんぼ、おけらの諸君に至るまで、人間に土地を荒らされ、生活を奪われて滅びつつあるギャッー。また都市部では人間が勝手にペット条例などと称し、猫狩りをしているギャッ。我々動物は人間に自覚をうながす方向で活動して来たギャーが、ここに至って人間はもはや動物の尊厳を持たぬ動物、自然を滅ぼす我々の敵と規定してギャ、一日も早く一人でも多く人間捕獲器を使って処分するべきギャッ。

(議場騒然)

ガー、人間といえども動物ですから、愛護の立場からいってどうでしょうか。捕獲器のような残虐・下品なものは人間特有の産物で、われわれ猫族のプライドが許しません。

(その通り、賛成など声)

問題は人間のシステムですニャ。いま人間は動物として当然持っている謙虚、やさしさ、よいものを楽しむ心、自足などの美質を失いつつあり、また発揮できなくなっているニャ。

ギャッー、そのシステムに従順で、何の批判も意見もないというのが、人間の習性ではないかギャ?

ぷい。それについてはちょっと犬さんに。

人間のばあい習性とはいえませんワン。たとえば我我犬族が命令をよくきく等と喜んでおりますが、我我の習性は自然界の必要性から生まれたものでワン、人間社会のうつしではない。どこどこまでも何でも、人間は自分に都合よく解釈す

るという事ですワン。

すると、人間の習性というのは何ですかぷい？。

ありません。

すべて社会的なものですワン。

（議場騒然）

ギャーーッ。

そ、そんなら人間は動物ではないと？。

ニャーーッ。先ほど私が申し上げたのは人間は動物ではあるがその高貴さを失いつつあると申したニャッ。

人間の凶暴性は何でも恐い方に利用するのギャーーッ。許せないギャッ。言論の自由が改悪に結びつくというふうにギャッ・・・

がー、人間の下らないシステムや凶暴性について時間をつぶすのはよそうではありませんか、がー？。

我々は何が出来るか、それにしぼりましょうがー。

ぷいぷい。

ちょっと休憩いたします。

（休憩おわって）

ぷいぷい。人間が動物にもどるふりかけの開発について報告を求めます。

（技術庁長官）

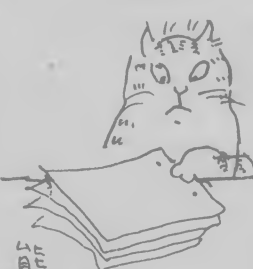
らー。

只今の段階では、人間が人間らしくなる、即ち動物にもどるという意味では大成功なのらー。らー、副作用の問題が解決しておらないわけらー。

がー、副作用の説明をして下さい。

らー。

このふりかけをふりかけると突然笑い出し、踊りだし、とまらなくなって死に至るらー。

そ、それは何故ですギャー？

らー。

動物生態学的にいうと人間があまりに人間的なものとかけ離れていて、ショックが大きいのらー。

ゆっくり効くように研究しているらー、ゆっくりすぎるとすぐもとにもどって効果がないのらー。困るらー。

（つづく）

嘘つきの日記

一九八〇年・夏

No.2

永島慎二

○月×日　夕方、〝ぎんなん〟でコーヒー飲んでいると、可愛い女の子が声をかけてきて、一諸にコーヒーのんだが、彼女の云つてる事が分らないので、約一時間説教をして帰る。

○月×日　約二年前の冬の朝、一匹のノラ猫がうちの庭にまぎれこんできて、南のベランダに住みついた。鼻をたらし、胃拡張の様に大きなおなかのノラ猫に、クンペと名前をつけて、客分としての身分を与え、そこに住む事を許可してきたが、この猫、やたらそのベランダが気に入つたかして、家内に云わせると、心がけが良いので今年の冬は寒くない様に、小屋を作つてやりたいと云うので、それなら私が作ろうということになつて、今日は、一晩かけてネコ小屋の設計図をひいた。

○月×日　初夏だというのに肌寒いのだ。おどろいた。地球の奴、風邪でもひいているのじゃないかと心配になる。

○月×日　午後四時頃起きて、その足で立ちそば食べて、銀座に出る。模型の伊東屋で、フライッシュマンのディーゼルを買い。次に新宿の駅前のコーヒー店で、仲間の水野良太郎氏に会う。模型鉄道に関しては、二十年先輩の水野氏に色々と話を聞く。最後に彼は、「たしかに楽しいけど……本格的なレイアウト作りは、隠居してからがいいと思うよ」と結んで、著書の鉄道模型の本をくれた。帰り、その本を夢中で読んでいて、吉祥寺まで乗り過して、又阿佐谷まで帰つたりした。

○月×日　天気、鉄道模型の材料をめちゃくちゃに買い狂う。

○月×日　午後四時に起ると、その足で立ちそば食べ、日本橋の高島屋で、メルクリンのZを買い、ついでにHOの基本セットも買い込む。帰りに、立ちそばの天ぷらそばを食べて、夜半家内の作るうどんを食べて、鉄道模型の仕事にとりかかる。

○月×日　あまり深く考えない様にしているが……時々頭の中が混乱する。例えば、鉄道模型にしたところで、Zゲージ、9ミリゲージ、HOと手を広げ、収拾がつかなくなつている。

○月×日　今日は、めづらしく昼頃に起きると、日曜日であつた。天気も良いので、家内と娘をともなつて、吉祥寺に出る。井の頭公園に行くと、ひとの良さそうな老若男女でごつたかえしていた。よく見ると、みんな馬鹿面してる風に思えてつかれてしまつた。帰りに、近鉄でメルクリンのHOの機関車を買う。

○月×日　この所、何週間か鉄道模型に熱中している。目がさめて寝るまで、鉄道模型の事で頭が一杯で、家内や娘が何を話しても、〝よきにはからえ〟と云つてすませている。深夜、Zゲージの楕円形の線路の上を、Cタンクに色々な貨車、

客車十五両程を引かせて走らせてみる。ゆっくりと確実に、よく走る。そのうち9ミリゲージ用の緑の木を、そこここに配置して、又走らせてみる。五時間程、眺めてはあきもせず過し、寝る前に、漠然と鉄道の走る島を作りたいと考える。

○月×日　光陰矢の如し。一晩中雨。

○月×日　午前四時、弁当を食べて、作文をして、鉄道模型のレイアウトプランにかかる。午前八時、家内と娘と、コーヒー、トースト、野菜サラダの朝食をとる。午前十一時頃、寝る予定。

○月×日　夕食の時、家内がクンペの小屋の話をした。「今年の秋は、もうそこまで来ているから、そろ〳〵小屋を作ってほしい」と確かに、南の入口のところに、いかにも〝早くやれ!!〟といわんばかりに転がっている。家内が買ってきた材料が、大きな顔をしてあることに気はついていたのだが、無視していた。鉄道にそれだけ気をとられていた。「もしなんでしたら、私が作りますから」なんて追討ちをかけるから、カチンときて私は怒る。殿様とは、女子供の命令でネコ小屋作らねばならぬほど、もっての外の云い草なのだ。トノサマというのは、自分がその時やりたいと思う事をやってりゃいいのであって、人の云いつけで、ネコ小屋を作るなんぞとんでもない考えちがいであるというのが、私の云い分である。そして、「君は、私の楽しみを奪うというのかね」そう云ってから約一時間半ほど説教をする。

○月×日　右の目の上の方にものもらいが出来る。一日中、眼がゴロ〳〵痛む。机に坐って、アズナブールを聞く。アズナブールが外の雨の音にぬれている。

○月×日　一昼夜かかって、裏のアトリエの約六畳の広さの所に、製図台を置き、その上に、うっちゃんが作ってくれたベニヤの台わくをのせて、9ミリの線路をひき、うっちゃんにもらったCタンクを走らせて感激する。

○月×日　9ミリは、阿佐谷の〝ベルホビー〟という店で、Zは高島屋で、HOは吉祥寺の近鉄で、買うのが決ってしまった。

○月×日　鉄道模型趣味という雑誌を、一年半位、バックナンバーがそろった。これで多くの人々が作ったレイアウトを見る事が出来る。

○月×日　私は、電気が苦手である。というより無知なのだ。その私が電気で動く鉄道模型に夢中なのだから、おかしい。レイアウトを考えると、どうしても電気の配線という私には理解出来ない世界を必要とするので、頭が痛くなる。水野氏曰くの、バカチョンであるメルクリンを選んだのもその為なのだ。

○月×日　鉄道模型のテの字も知らなかった私が、それを知って一ケ月目にしてレイアウトにふみ切った。ベットをひとつつぶして、Zゲージで島を作り、街、山、川、海とすべてをもりこんだ鉄道が走る世界を作ろうと決意する。

○月×日　今日は、朝からうっちゃんが作ってくれたベニヤの台を解体して、Zゲージ用の台を作る。久しぶりに汗がほとばしる。いつにない充実感を、夕食と共に味わう。

○月×日　ネコ小屋のことで、家内に二時間説教する。

○月×日　Ｚゲージ用の洋館を、二軒建てる。

○月×日　Ｚゲージの台の上に、線路をひいて、走らせてみる。それから、あれやこれや考えて図面をひく。

○月×日　雨のち晴のち曇りのち雨。

○月×日　あまり元気がない。ＨＯの機関車が買いたくて、うづうづしている。

○月×日　貫徹して、Ｚゲージの線路を敷き終る。クギを打つのに、懐中電燈で照らさないと、クギ穴が見つからないので、骨が折れた。

○月×日　午前十一時頃に眼をさましてみると、極上の天気だ。めしを食ってぐずぐずしてることに飽きたので、ふとネコ小屋作りを思いつく。庭に出て、さて作ろうと家内の買いそろえた道具類を見ると、ゴチンときた。コーヒーを入れている家内を呼びつけて、約十五分説教をする。おかげで苦いコーヒーのんで仕事にかかる。それから一時間程の間に、二度ばかり家内を近くの金物屋に走らせて、必要なものをとりそろえてギコギコ始める。汗が出る。すぐつかれる。困ったものだ。三度目に、家内を呼びつけてクギを買ってこいと云う頃には、この家来なるものは、又もその身分を忘れ、図に乗った態度で、「いいかげんにして下さい」とこいた。今度はガチンときたので、一時間程大声でわめき散らす様に説教する。それをクンペは飽きずに見ていた。おかげで仕事はおおはばに遅れる。午後六時半頃、青林堂の長井さんが、新らしい本を持って見える。「やってますなあ」と云って、長井さんはニコニコしておられたが、日はまさに暮れなんとするのに、今だ完成しないネコ小屋を作りながら、私はどこかで、ほっとしてしまって、あいまいなあいさつしか出来なかった。

○月×日　夕方目をさますと、ペンキの匂いがして、昨日作ったクンペの小屋に色がぬってあった。朝、娘を学校に送り出す時、ふと見ると、まだペンキのぬってない作りたてのホヤホヤの犬小屋の様な中で、丸くなってクンペは寝ていた。私は、クンペに愛情の様なものを感じる。うい奴である。

○月×日　家内を居間で説教していて、ふと見ると、クンペが小屋の上に坐って、こっちを見ている。この猫は、決して家の中に入ってこないが、外より家の中に興味を持っているらしく、よく家の中を見ている。不思議なネコなのだ。たとえ、ネコであったにせよ、説教たれる時は、も少しきちんと坐り直してから説教の続きをした。

○月×日　目をさまして、駅前のコーヒー店でコーヒー一杯のんでいると、一日が暮れてゆく。人々の一日は、あきらかに一日の後半の自由な時間なのに、わたしの一日は始まったばかりなので、なんとなく申し訳けない様な気分におそわれる。一日と一日のはざまに落つこちてる人間ではないだろうかなぞと考えながら家に帰る。

○月×日　漫画を少し描いて、Ｚゲージの家を二軒建てる。

○月×日　今年の夏は、冷夏とか云われて、本当にしのぎやすかった。こんな事とは露知らず、春の頃、家族のみんなで今年

の夏はひとつ三日程出かけようということになって、計画たてて、高名なる避暑地のホテルに予約しておいたのだった。そこで、上はおばあちゃんの八十八才から、下はおばあちゃんの曾孫にあたる八才を含めて、総勢八名は、二台の車に乗ってすごしやすい東京をあとにした。どんより曇ってる上に、現地は肌寒く、すべてのものがバカ高く、ホテルは不親切で、くいものはまずいときて、風呂は汚れているといったあんばいなのだ。その上、一夜明けた午前中、私は子供達と温水プールに行く途中で、車のキイを落して、約半日捜しまわったが出てこなかった。結局、少しの時間を楽しんだのは、子供達二人とおばあちゃん位か、ホテルの部屋のカベに〝うんこ〟なんて大きく書いてあるんだから、たまらない。叔母を含む大人達は、次第にブーブー云い出して、みんながイラ〳〵していた。大金を払っているという気持と、どうしてこんな目にあわねばならないのかという疑問が、それぞれの心を交差していた。不愉快な旅行だった。帰って来て何日かして、家内が笑いながら、「今度の旅行のこと思い出していたら、ふと、宮沢賢治の〝注文の多い料理店〟という童話を思いだしちゃった」と私に云って、「うん、あの話よく出来てるなあ」と感心している。私は、一しゅん不愉快な思いにかられたが、なるほどとも思い。鏡の前に行って、しげ〳〵と自分の顔見て、「そういえば、私の顔は、前より少しゆがんだようにみえる」としみじみと云うのだった。

○月×日　「そういえば、今年は庭の紫陽花咲かなかったねえ」と私、「切りました」と家内。「どうして？」と私。「大変だから」家内。そして、大きな長い柄のついたハサミを出してきて、秋までに庭の木々と、これで格闘するんだと、家内と娘ははりきって、巨大なハサミをチョキチョキいわせている。私は、なんとなく、戦慄を覚えて「がんばる様に」と云うのがやっとだった。

○月×日　そこは、あきらかに異次元空間で、見た事もない世界。視野を横切って走る水平線の様な線が一本。これは、風景ではないとつぶやいて、その線に腰をおろした私が居た。次には、巨大なハサミに追いかけられて水平線の様な線の上を、一生懸命で逃げている。ハサミが追いかけながら発するチョッキンチョッキンという音が、オタマジャクシとなって、線の下を泳いでいる。ここで目がさめてへをひる。

○月×日　山頭火の句集を開き、いくつかの句を読む。一つの句の前で、私のすべての思考が絶句して立ち止る。〝濁れる水の流れつつ澄む〟なんというやさしさ‼。

○月×日　あっちの方から走ってくる明日と、こちらがあっちに歩いて行く速度が、今日は一日中気になった。ただそれだけで疲れ果て寝ちまう。

○月×日　あれから何十日とたっていないというのに、私の作ったクンペの小屋の飾りにつけたひさしがとれている。あれだけたくさんの能書たれて作ったものが、こう簡単にこわされては、たまったもんじゃない。クンペに三十分説教をする。

○月×日　ピエロの油絵四Fを五点描く。クンペの頭をなでてから床に入る。

マンガの眼⑬

おそるべき背景

これは、ほんとうかどうかわからない。S氏が教えてくれたところによると、この作品を某「一流」少年週刊誌の依頼をうけて一年ちかくかかって描きあげ、もっていったところ、担当編集者がだまりこんで口もきけないようすだったという。

小崎泰博『幻の10年』（東考社刊）を読んだあとで、その話を聞き、おもわずふきだした。たしかに、この作品が「一流」のマンガ誌のために用意されたものだったという「伝説」はなかなかいい。S氏が教えてくれた内幕は、たぶんうそだろうが、読後感としては、「とにかく疲れて、ぐったりしてしまいますよ」とつけ加えられたことばとともに、この作品の一側面を的確にいいあらわすものだった。

九六ページの作品全体が、じつに克明なペン描きによってみごとにうめつくされていて、どんなささいな背景も、おそるべき緻密さによって描きつくされていることにおどろかされた。この本の跋を書いているかわぐちかいじにいわせると、こうなる。

「それはまさに衝撃であった。最初この作品を見せられたとき、あんぐり開いた口から涎を垂らしつつ私の両眼は原稿のスミからスミまでビッシリ描きこまれた『世界』に引き込まれ、（中略）ドッと疲れ果て、もはや批評する気力も失せてしまっていた。」

あの劇画家かわぐちかいじをして、あんぐりと口をひらかせた作品とはなんなのか。わたしの読後感は、かわぐちかいじほどはおもいやりのあるいいかたにはならないけれども、この新人の筆力、というよりも膂力といっていいものに感嘆したことはまちがいない。

「ビッシリ描きこまれた『世界』」とは、いってみれば、ひとつひとつのカットの背景であるがゆえにむしろそのカットの主体としての意味をもってくるダイナミズムをさしている。たいていのばあい、背景とは、屋外や屋内の光景がごくしぜんに視角のうちにはいるものとして描かれる。作者なりの特定の意志が背景描写に付与されるとしても、ごく部分的なシーンにとどまることが多い。しかし、『幻の10年』における背景とは、それを背景として描こうと選択されたことの意味を重く含んでいるような感じさえする。したがって、そこでは、主要な登場人物たちの顔あるいは動作を描くのとまったく等価に背景がぬりこめられたおもむきが感じられる。

そういう意味でなら、この作品ではすべての背景が、小崎の意志をつたえる風景だといえるのかもしれない。劇画作品が劇画表現を獲得するために不可欠な一コマの絵の意味性といった要素をもつとするならば（もつわけだが）、小崎のばあい、なかば表現のならいでもあるかのように風景を克明に描いてしまうところに、かれなりの劇画表現の論理が集約されている。

タイトルにも象徴的なように、一〇年という歳月をへだてて再会したいとこ同士のわかい男女と、かれらに共通の友人との屈折した関係を主題として、かなり「形而上的」な会話が横溢する。紙数の関係でほとんど説明する余地はないけれども、「形而上的」なシーンが技巧的に処理されすぎていたりする点は、たしかにある。いっさいには、それらはことばとしてのどのような哲学もテクニックも不要なはずで、しょせん絵によって語らしめるべきであろうことはいうまでもない。その「絵」こそがいまいったような意味での「風景」にほかならない。

かわぐちかいじの短文のタイトルは、いみじくも「地理の小崎と呼ばれていた男の劇画」と掲げられている。少年のころ地理がすきだったという小崎の思想は、まさしく地理という名の魅力的な体系によせる愛着と重なってみえる。千変万化する人間の営みにこれほど隔絶しながら、なお密着した様相をていするものへの徹底的なこだわりは、この作品を解く鍵でもある。

梶井・純

『幻の10年』（東考社刊）より

目安箱178
変われば変わるほど何も変わらない
上野昂志

世のなか、変われば変るほどいよいよ変わらない、といった意味のことを誰がいったのか、いまでは忘れてしまったが、たぶんわたしのことだから、そういう意味のことばを引用した文章を間接的に読んだのであろう。もともと誰が口にしようと、これ自体はたいして変りばえもしないいい草だから、出典などたいした問題ではない。しかし、若い頃は、こんなセリフを眼にすると、何いってやがる、乙に澄ましやがってと反撥したものだが、最近はそういうことはない。ばかりか、わたし自身、気がつくと、撫然たる顔つきで、そんな文句を呟いていたりするのだ。まったく、世の中、変われば変わるほどいよいよ変わらないようなのである。

つい最近も、ちょっと必要があって織田作之助の「世相」という戦後すぐに書かれた小説を読み返していたら、早速こんなことばにぶつかった。

「あんた達はとにかく思想に情熱を持っていたが、僕ら現在二十代のジェネレーションにはもう情熱がない。僕はほら地名や職業の名や数字を夥しく作品の中にばらまくでしょう。これはね、曖昧な思想や信ずるに足りない体系に代るものとして、これだけは信ずるに足る具体性だと思ってやってるんですよ」。

このことばは、そのまま現在につながるであろう。というより、織田作の名前を伏せて出したら、いまの若い小説家や文芸評論家がいったこととして、そのまま流通しそうではないか。彼らはむしろ廻らぬ舌で懸命にこういうことで、自分たちの現在の新しさを主張しているようでさえある。そうして「価値の多様化」だの「枠組のなくなった現在」だのと、あたかも画期的なことででもあるかのようにいい募っているのだ。わたしは織田作之助という作家を嫌いなほうでなく、むしろ好きな作家の一人だが、右に引いたような彼のことばは、この国に伝統的な庶民哲学の一変種だと思う。かくべつ目新しいものではない。庶民はいつだってこんなふうなことばを呟きながら知識人の「思想や体系」を醒めた眼で眺めてきたのである。そして、ハシカから治るように「思想や体系」の熱から醒めた知識人も、そこへもどって同じセリフを呟くのだ。現在の若い小説家や評論家たちの主張がそれとどれほど違って「新しい」のか。まったく、世の中というものは変われば変わるほどいよいよ変わらぬものなのかもしれない。

しかし、「思想や体系」から解除されたことでみずからの現在を謳歌しているのは、若い世代ばかりではないし、文学や批評の領域ばかりではない。世の中全体がそうなのだ。たとえばここに中国というファクターを投げ込んでみれば明らかになるのだが、中国での文革批判と、「近代化」推進が、日本の各界各層にとって、どれほどその現在を無条件に肯定する傾向を力づけているかはかりしれないものがあるのだ。文革のときに抑圧されていたものが、いま一挙に吹き出しているというのが、日本のジャーナリズムの中国についての見解だが、しかし本当は、それは中国のことでなく、日本のことであろう。文革批判と「近代化」で解放？　されたのは、むしろ日本のほうであり、とりわけその対中国姿勢である。

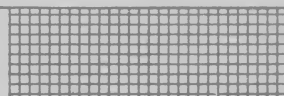
これまたつい最近、日本経済新聞のコラムで読んだのだが、総評の富塚という事務局長が、九月の下旬に中国の総工会に招かれていった。まあ一週間か十日間あちこちを見てまわったのだろうが、帰ってきての印象としてこういっている。

「中国の社会生活事情は、日本と比較すると、約二十年遅れている。

労働者はあまり働かない。怠け者が多いという印象だ」。
　彼はまた、中華総工会の指導者に「市場メカニズムを機能させ、商品経済を浸透させることによって生産を拡大し、国民の消費生活を向上させること」の必要性を説いてきたそうである。
　ところで総評というのは、たしか労働組合の連合体で、それも、同盟とくらべると「左翼的」な立場をとっているところだったはずだ。しばらく前には、資本主義体制に対する批判的な旗印を掲げていたはずで、いまでも社会党の母体だったはずである。しかし、そこの富塚という事務局長のいっていることは、日本の経営者でもあまりいわないくらいあからさまに資本主義的なことである。いや、彼が総工会の指導者にした忠告のほうは、企業家ならもう少し婉曲にいうかもしれぬが、前の発言のほうは、企業家でもまず口にしないことだ。彼らは実際に商売がからんでいるから、もう少し遠慮するはずである。たとえ、腹のなかで思っていたとしても。
　むろん、いまさら総評の事務局長が、企業の経営者よりも資本主義的であることに驚いてみせる必要はないであろう。日本の労働組合が、合理的な企業経営にいかに有効に機能しているかはすでに世界中の注目を集めていることでもあるからだ。中国の総工会にしても、総評の代表を招いたのは、何も彼から労働運動についての見解を聞くためではなく、日本の労働運動がいかに有効に企業を支えているかを知るためだったのだろう。その点では、富塚某は、予想にたがわぬ発言をしているだけのことだ。何を驚く必要があろう。
　ただ、わたしが彼の発言をとりあげたのは、彼が、戦前の日本の指導者とほとんど少しも変わらぬ意識で中国を見ているようなのが、気になったからである。もう少し時間があって、戦前の雑誌でも調べたら具体的な例を挙げることができるはずだが、たしかにそうなのだ。彼らも中国が日本と比較にならぬほど「遅れている」ことを強調し、中国人には「怠け者が多い」という印象を語っていたはずである。おそらく富塚某も、こんなにどうしようもない中国を近代化するためには、日本がもっと積極的に指導しなければならないというのであろう。いずれは「アジアの盟主」としての日本が、「支那経営」に乗り出すことを主張するはずである。結構なことである。日本の「左翼」も労働組合も、こういうことは得意中の得意のはずだから、うまくやれるであろう。いったい彼らが何故「軍備増強」反対をいっているのか、わたしにはまったく理解できない。「支那経営」と「軍備増強」と何も矛盾することはないじゃないか。どちらも大日本帝国万々才だ。まったく、世の中、変われば変わるほど何も変わらないのである。
　だが、我々は、富塚某のこのような見解が、文革批判と近代化提唱のなかで出てきたことについては注意する必要があるだろう。いくらなんでも、文革の最中には、こういうことはいわれないのである。いわばそれに対する批判が、彼のなかのチェック機構を解除させ、みずからの現在を野郎自大に肯定するように働いたということである。オレたちのほうが、中国より二十年は進んでる、というわけだ。何しろ、ヤツらは怠け者だからな、というわけだ。よかったね、日本人は勤勉で。
　しかし、みずからの現在をべったり肯定することが、実はそのまま四十年余りも前の自分へと循環することであるとは、いったいどういうことなのか。ここでは何も新しいことはないし、何も古いことはない、要するに何ひとつ終わってはいないのである。

illustration 南 伸坊

物一覧表

振替東京０－135477
〒101　千代田区神田神保町１の62

青林傑作シリーズ　各巻Ａ５判　1200円

①フーテン(上)　永島慎二
虚構の青春の中に真の人間の生き方を鋭く抉り、永島慎二がやさしく君に語りかける

②フーテン(下)　永島慎二
人生とは何か？……青春とは……
若き世代の苦と喜びの青春残酷物語

③寺島町奇譚　滝田ゆう
古きよき時代の下町を絶妙の名人芸で描出する

④黄色い涙　永島慎二
悩みと喜びの青春をゆく旅人たち
永島慎二がやさしい若者たちに送る友情の記

⑤だめ鬼　村野守美
人生の機微を描いて温かく感動を呼ぶ
村野守美絶妙の職人芸！

⑥そのばしのぎの犯罪〈第一部〉　永島慎二
激しい浮沈の運命を生きる男そのばしのぎ、
シリーズ青いカモメSIDE②

⑦狂人関係〈第一部〉　上村一夫
風狂の絵師上村一夫が描く画狂老人北斎の生涯！

⑧青春相続人　宮谷一彦
極寒のアラスカに伝説の黄金トナカイを追う、
天才宮谷一彦が現代に問う青春論！

⑨花いちもんめ　永島慎二
メンコのスーパーヒーローナタ政とゆかいな仲間たちがくりひろげる痛快下町メンコ戦争！

⑩白い伝説　真崎　守
北国の長い夜に語りつがれて来た雪女伝説、
飛んでる真崎守が新しい神話を送ります。

⑪狂人関係〈第二部〉　上村一夫
葛飾北斎とめぐる人々のおりなす壮絶なる人間模様。

⑫泥沼－どぶだめ　村野守美
巨匠村野守美がしみじみと人生を物語る、好短篇集。

⑬港野郎にきをつけろ！
貸本漫画時代のあの感動がいま鮮かに甦る、
永島慎二初期名作リバイバル！

⑭親不知讃歌（おやしらずさんか）　松本零士
敷井高志14才、親の知らない世界もある
これはその親の知らない物語………

⑮狂人関係〈第三部〉　上村一夫
降る雪に、散る花ビラに舞い惑う、画狂北斎をめぐる鮮烈な人間像。

⑯よさこい節　青柳裕介
郷里・南国土佐を舞台に、デビュー当時の青柳裕介が描く珠玉短篇集。

⑰秘戯御法（ひぎぎょほう）　村野守美
巨匠村野守美が性の深淵をえぐる!!

⑱おせん　楠　勝平
ひたすら漫画に命を燃やし若くして逝った楠勝平、
ここには、素直に涙できる本当のやさしさがある。

⑲狂人関係〈第四部〉　上村一夫
大好評上村一夫の最高傑作〈狂人関係〉完結編!!

⑳媚薬行　村野守美
欲望に操られる人生、媚薬に託した人の哀れ

㉑そのばしのぎの犯罪〈第二部〉　永島慎二
月刊漫画ガロ大好評連載のうちに遂に完結！

㉒ブルーセックス　川本コオ
遠い記憶の中から甦える甘ずっぱい思い出。

㉓六の宮姫子の悲劇　つりたくにこ
不条理なたそがれの夜明け、
酔狂な愚者達が演ずる悲劇的喜劇の惨劇。

㉔龍神　村野守美
求めて追えば逃げ、拒めば追われ、
真にままならぬは業火現世の無常……

㉕サロメの唇　手塚治虫
むかし長崎に青い目の遊女がいた
異国情緒あふれるエロチックロマン!!

㉖傀儡がえし　白土三平
赤目の観世音と呼ばれる正体不明の忍者、
その不思議な術とは……!?

㉗ぬけられます　滝田ゆう
日本的な大衆の欲望と悲願とをとりあげた、
独自のユーモアの結晶!!

現代漫画家自選シリーズ　Ａ５判

ホンダラ部落　砂川しげひさ　480円
飄飄とした描線にのせて贈るナンセンスの極地！

陽炎　青柳裕介　540円
デビュー当時の作品で綴る青柳作品の原形。

男一発　辰巳ヨシヒロ　480円
辰巳作品の根底に漂う無気味な亡霊を探り出す！

岩本武蔵　岩本久則　480円
不条理とアルセンスの二刀流宮本ならぬ岩本武蔵！

おえんの恋　池上遼一　480円
炎と化した江戸の町女が一人情炎に燃え盛る

蒼き狼の咆哮　佐藤まさあき　480円
19才は死刑にならない！都会を彷徨する殺人者達！

よくふか頭巾　永井　豪　540円
根性と執念の男快盗よくふか頭巾は今日もゆく――！

わら草紙　勝又　進　600円
農村の風情を背景に人の世のはかなさを描く

乱華抄　上村一夫　600円
青い季節は哀しくて、狂乱緞子にしのび泣き

日本チャンバラ伝　高信太郎　600円
手に汗にぎるしょんべんちびる、古今の豪傑の名勝負

狂葬剣記　政岡としや　580円
ノッてる漫画家政岡としやの佳作短篇集

与太　ほんまりう　580円
古き良き時代を背景に姉弟愛を描く秀作

黒衣の妖女　平野　仁　580円
鬼才平野仁が秀麗なタッチでおくる快作

喜劇新思想大系　山上たつひこ
抱腹絶倒＋驚天動地×支離滅裂＝●☆×〒！!!？
正 580円　続 580円　続々 580円

血染めの紋章　かわぐちかいじ
2.26事件を克明に描写する！
第一部 580円　第二部 580円

モヨリノショテン　マタハ　チョクセツ……
トウシャマデ　オモウシコミクダサイ。

青林堂出版

フープ博士の月への旅

夢多き大航海時代の月世界探険。
波乱万丈で驚天動地、
奇想天外で抱腹絶倒の冒険大活劇!!

たむらしげる著
A５判上製1000円

永島慎二傑作集

各巻・A５判函入上製本・330頁（カラー２色を含む）・1500円

第一巻 さんしょのピリちゃん（処女作）／天使のいる街／漫画家残酷物語／漫画博物館／はらっぱのものがたり／自画像　他

第二巻 愛犬タロ／源太とおっかぁ／拳銃物語／丘の上のホロ／新雨月物語／生命／オムニバス恋／カカンがきいたカエルのはなし　他

第三巻 どんぐりと山猫／砂山／おしゃべりなトト／日本昔話／おふくろ／仮面／少年の夏／いじめっ子サブ／青春劇場／海　他

第四巻 心の森に花の咲く／ク・ク・ル・ク・ク・ハロマ／ソウルの響き／青春裁判／少年／旅人くん／フォト・夏／遺書　他

櫻画報大全

赤瀬川原平著

全国読者の熱望に応えて新装改訂なった名著『櫻画報』の最終決定版！

B５判・箱入上製本・三〇〇頁
三、〇〇〇円

林静一作品集

彩色描き版四〇頁描き下し『花に棲む』を初め、マンガにアニメに異彩を放つ林静一のすべて！

B５判・箱入上製本・二七〇頁
一、六〇〇円

送料は「性悪猫」「クシー君の発明」「爆破」が各250円、「櫻画報大全」「風の吹く街」が各350円、その他は１冊につき各300円かかります。

評論

秋山清著
郷愁論—竹久夢二の世界　一、七〇〇円
漂泊の詩人・竹久夢二の〝郷愁〟の本質をさぐり、反逆とは何かを問い正すユニークな夢二論

上野昂志評論集
沈黙の弾機　九八〇円
赤瀬川原平論、加藤泰論（以上書き下し）、鈴木清順論、林静一論、ヤクザ映画論、歌謡曲論他

渡辺一衛評論集
異端の唯物論　九八〇円
60年安保以来派生した幾多の問題と真摯に取り組んだ画期的論文集—ソ連官僚制社会主義論

野本三吉著
爆破　六八〇円
〈コミューン〉を求めて彷徨う著者が若松との対話から人間の原質を問う衝撃のドキュメント

タラコクリーム

正義の筋肉、悪の筋肉、青春の筋肉、愛の筋肉がエネルギッシュにまとめあげた精神のボディビルマンガ!!

渡辺和博著
A５判・850円

性悪猫

やまだ紫著
A５判上製　950円

せけんなど　どうでもいいのです。
………　お日様いっこ　あれば

青の時代

安西水丸著

悲しく、孤独で、透明な意思が、
弱光の風景の中に鮮かに甦る。

A５判上製貼函入・1500円

月の光

花輪和一著

世人の怨念がうず巻く限り月の光は消えません、何百年でも何万年でも……

A５判上製貼函入・1400円

ピクルス街異聞

佐々木マキ著　B５上製・1300円

闇夜にひそむブラックホール
一度のぞいたらさあたいへん!!

クシー君の発明

鴨沢祐仁著

魅惑のオブジェ　夜の星
流れ星がコスモにむかってスパーク

A５判箱入上製・カラーイラスト入・1400円

虚構の神々

赤瀬川原平著

私は毎朝一杯づつ、アンドロメダ星雲を呑んでいる。
コーヒーにお砂糖をかきまぜて、ミルクをスロン…………

A５判箱入上製290頁　1800円

シリーズ青いカモメSIDE⑤

リリィのブルース

オチャメで楽しいシティガールの
オシャレで優しいラブストーリィ

永島慎二著

AB判・箱入上製本／オールカラー72頁／2000円

シリーズ青いカモメSIDE④

風の吹く街

永島慎二著

出合い・別れ
人生の一瞬をとらえるユマニスム
永島慎二傑作短篇集

B４変形・箱入上製本
108頁（カラー15頁）/1800円

木村潔に脱帽

伊部誠三㊐（長浜）

年に一、二度あることだが、先月号のガロはちょっと元気がなくて、どうしたのかと心配した。しかし12月号には二号分のパワーがあふれていて満足した。やまだ紫・高部両市・三橋乙揶らの全力投球に感銘をうけたが、最も強烈な印象をのこしたのは、木村潔の入選作品「蠢く」であった。

これは陰気な男の低劣な行為をえがいたものである。彼は他者との交流をさけて閉じこもるタイプらしい。処世のための基本的な約束ごとにも耐えられない勤め人だ。ではそういう男が、強制された仕事から離れ拘束から一時的にせよ解き放たれたとき、何をすればよいか。彼は非常に不安定である。自分が自分でなかったのだから、何とかして自分自身を回復しなければならない。自らの欲求を自らの意志で自ら実行すること。これは自己保存のための本能的な衝動である。肉体の疲労をとりのぞいたあと、彼は行動する。そして彼は彼自身となり彼を回復する。そのことばが「ラー幸せっ」なのであり「おーっはみ出してしまう」なのであった。作者の力量は相当なものだとおもう。筆づかいがとても生生しく、ひきつけられた。「蠢く」を絶賛し、木村潔に脱帽する。

詩でも落書きでも音楽でも

板野博行（杉並区）

11月号は実によかったです。この内容なら1000円出して買ったげますよ。

僕にとってガロは、漫画という一般的にはひじょ〜にせまいわくの内の一般的な認識をぶちこわしてやはり漫画は詩でも遊びでもありうるのだなぁというふしぎな安ど感をもたらしてくれるのです。僕にとっての〝答え〟がガロにはちゃんとあります。

200号記念の時にはお祝いを出しませんでしたが、おくればせながらおめでとうございます と言わせていただきます。

ガロ投稿作家の諸氏へ

※ガロへ投稿する場合次のことを注意して下さい。

① 原稿料が出ません。……当社としてもたいへん心苦しく遺感なことですが当分の間は、無理と思います。この問題は皆様にとっても重要なことと思いますのでよく考えてから投稿して下さい。

② 返却用封筒（切手貼付）の入ってないものは、返却できません。

270mm
〒000-00 神田神保町 青林堂行 三折厳禁
荷造りのテープで補強しておくとりたまない
※封筒と同寸のボール紙を入れておく
〒000-00 ○○県○○市 誰・某殿 三折厳禁
（返却用）

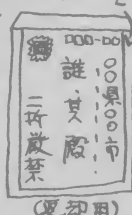
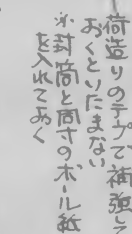
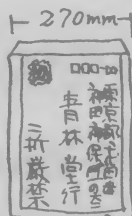
③ 寸法・原稿は必らずタテ27.3cm ヨコ18.2cmでお願いします（仕上がりの1.3倍）

④ 墨汁または製図用インク（黒）を使用して下さい。中間の調子が必要な場合は、スクリーントーンを貼り込んで下さい。うす墨によるボカシはさけて下さい。

⑤ セリフ・ナレーション（ネーム）は鉛筆で読みやすく入れて下さい。

⑥ ページ数は何ページでもかまいませんが30・40とあまり多くなると本誌のページ割りがむずかしくなってきますので16〜20ページぐらいが適当かと思います。

⑦ 送り先 〒101東京都千代田区神田神保町一の六二 青林堂

⑧ なぜ投稿するのか、作品を通して訴えたいことは何かをもう一度よく考えて下さい。編集部としては作品が多少未熟であっても可能性のあるものは、意欲的にとり上げるつもりです。皆さんの作品を期待しています。

以上

素直に高信太郎

望月孝志（甲府）

まだ半年程しか愛読し初めてからたっておりませんが、毎月ガロを心待ちにしております ガロに発表される先生方の多くがどこか斜に構えて書かれているのに対し、高先生の作品はとても素直に受け取られまして気にいっております

編集者の方々へのお願いですけれども、も少し明るい作品も載せるようにしていただきたいのですか………それと12月号の「未知」の高山和雄のオチはつげ義春氏のまねではないのか？書くほうも恥知らずだが、のせる編集者も無知なのか無恥なのか………

前略、猫も、ついでにマンガもでても。

金沢市遊民（大阪にて）

マンガも、ついでに猫も。でもよいけれど、好きで。そんなこんなで買った一冊『性悪猫』でありましたが。

作品には、かなりボーゼン、驚きかつ、アキレ。それなりに、かつ感嘆もし。やまだ紫作品のファンに、成りまして……というのは、ちと言い過ぎ。ではあるけれど。（痛いからむしろ、恐いもの見たさ……のほうが、正確だろ。）

これからは、数ヵ月に一度二度。大阪・東京なんぞの書店の。マンガ棚の所いく折々には、アナタの名前も探し見ることに、成りそうです。

でも、初期作品集のは、店頭の立ち読みで、済ませた。ワケで、金払う程の作品、ではない。のかどうか。懐具合のせいも多分に……あったりもして。あしからず、てからず。へそからす

とりあえずの処では、次回作単行本に期待します

草々、

アァ！残念残念

トテモ無知ナ人（大阪）。

花輪和一先生の新作「月ノ光」にはいささかがっかり致しました。私は花輪物を読むのは実は初めてなのですが収められた旧作は、まるで煮へ湯を呑まされるやうな雰囲気に包まれて『アヒッ！トテモヨカッタ！』――だのに最後の「月ノ光」では、その一見訓語的な物語筋（実は違ふが）と言ひ、登場人物の平均型日本人のオバサン方の筆致と言ひ、『コレデハマルデ棟図かずおノ「イアラ」デハナイカ！』しかも「イアラ」に比べると総ての点で行き詰って負けてしまっているとしか思へなひ、こんなのイヤラ！と思わず叫んでしまひました。やっぱり花輪先生は、完全誤楽異次元エログロの、いわゆる〃花輪物〃の作品でツラヌヒテホシヒワ。

先生、かってな事ばかり言ってゴメンナサヒ。ユルシテユルシテユルシテドドドビュツ

思います。

伊藤れい子（18才）

私「ガロ」がこんにちも、本屋でうられているなんて、今日まで知らなかったんです。そしてあこがれの「ガロ」に会えて本当にうれしいです。

さて私は、昭和の初めころか、戦後かよくわからないけど、つげ義春氏の「紅い花」の背景となっているような時代に、すごいあこがれをいだいているのです。白い夏シャツに半ズボンに白い学帽のじんじょう小学生、路地裏のトウフうりや火ばちでサンマ焼いてたりしている光景……涙がでます。

ところで11月号の峰岸達氏の「夏の放課後」感激しました。あのくらいの時代にもどって、美しい顔だちの書生さんとフラトニック・ラブなんかいいです。

おはようございます。

針村しな子（北海道）

十一月五日、汽車ん中で高山さんの「未知」を眺めていたら、李さんの奥さんの声が聞こえてきました。「あの一家も、トートー階に……」などと馬鹿なことを考えていたら一駅乗り越してしまいました。

幻想の明治感想文

◉高信太郎先生のマンガはスポンッと快い音を立てて頭の中に入って来る様な、不思議な快感があります。読み終えた後、アレは何だったのだろうかと一寸考えて見るのですが、霞をのぞき込む様な感じであまり良く分らずに考えるのを止めると、『あああそうだったのか』といった感じが頭の中をかすめて、一人で納得してみる次第です。思うに、この人は何か悟ってるんじゃあないでしょうか。心ん中を覗いて見たら、すごくシリアスだったりしてなどと思うのであります。ユーモアは理性であることを付け加えて感想を終りっ。

（川崎市）池田尚

◉僕はあんまり高信太郎先生の絵が好きではないのです。でも最初から最後までツ・カ・ズ・ハ・ナ・レ・ズ・おいしいサラダの様な語り口はあの絵から出る味なのかも知れません。

とにかく最近の信太郎先生の作品は僕にとってキ・ョ・ー・ミ・をひくものばかりです。幻想の明治は先生の作品の中でも一番光っています。これからもずっと続けていってほしいと思います。

幻想の明治を見ていると昔の新聞の方が今の新聞よりナ・ウ・いんじゃないかと思ってしまうのですが、どうなんでしょお？

（神戸市）上前祐二

以上先月号プレゼントの課題感想文より紹介しました。

通信欄

●「ガロ」67年頃から百三十冊。「夜行」一～六号。つげ、辰巳等の本約十冊まとめて取りに来れる方におゆずりします。ハガキで連絡を。リスト送ります。〒537大阪市東成区大今里二―十五―二二

〈田中守〉

●「譲ります」つげ義春初期短篇集（限定判・署名入・幻燈社S44）☆片山健著『美しい日々』（限定判・署名入・幻燈社S44）☆林静一著『紅犯花』（限定判・署名入・幻燈社S45）☆花輪和一作品集（限定判・署名入・青林堂S52）☆勝又進短編集（限定判・署名入・青林堂S51）☆つげ義春著『腹話術師』（北冬書房S49）以上希望価格を書いて往復はがきで至急連絡を待つ。（又は水木しげる貸本マンガと交換可）〒106東京都荒川区南千住2の15の5照山ビル4FC号

〈大島義行〉

●滝田ゆう著の貸本時代の単行本・新書判のカックン親父（東京漫画出版社）又はひばり書房）等を是非譲って下さい。また以下の本譲ります。水木しげる著「近藤勇」（虫プロ）、白土三平選集④（秋田書店）忍法秘話⑤（青林堂）。左記まで御連絡下さい。〒811―34福岡県宗像郡宗像町光岡六八八

〈添田秀文〉

●前略、横山光輝著の「音無しの剣」「剣竜」「白百合物語」をお譲り下さい。又交換に冒険王S28・②（足塚不二雄の四万年漂流が入ってます）あります。〒544大阪市生野区新今里6の8の21（キスカビル内）〈苅安浩〉

●白土三平・つげ義春氏の古本でもなんでもかまいません。何でも買入しますので是非御連絡お願いします。〒479愛知県常滑市蒲池坂上91の1〈中山浩雄〉

ゴシップ

㊂『**ニューコミック・パフォーマンス**』ガロ出身の**ニューコミックスーパースノッブダブトリオ**（なんだかわかんないけどこれだけ並らべればそれっぽいじゃない？）の**渡辺和博**、**ひさうちみちお**、**奥平イラ**の原画展が、渋谷の**ナイロン100％**（476−0662）で行なわれる。日時は12月1日から14日までだから、忘れずに観に行けよー!!

㊂**川崎ゆきお**先生、2冊めの単行本が出た!!題して川崎ゆきお作品集「**てんちむよう**」（ブレイガイドジャーナル社刊650円）主に'75年以降ガロに連載していた作品を中心に描きおろしも入っているゾ、川崎ファンは絶対買いなさい♬

㊂**奥平イラ・美樹**夫妻の結婚披露パーティーが先日、新宿区役所通りのオカマディスコ『白鳥の湖』であり、例によって髪を立てた奥平君はともかく新婦側友人が美人多数であったことも、メデタイことの一つであった。さてパーティーも終わり奥平君から『二次会はツバキで……』とゆーにあって、一同伊勢丹裏に向かったワケであるが、高信太郎先生は写真のように大そうなモテ方であった

➡美人にかこまれた高先生

➡ウェディングケーキにナイフを入れる奥平夫妻♬

㊂11月3〜8日にかけて**クマさん**が青山のみつめ画廊で「**篠原勝之個展・熊展**」を開きました。紙面いっぱいに鉛筆で彫密にうめつくされた絵には『**屈折された威光**』さえ感じられ、思わず息をのむほどすばらしいものでした。で、この日のクマさんの服装ですが、白の木綿のシャツにレザーのハンツでベルトのバックルは**イナズマ**の形で**キメ**ていました。クマさんのおなかは**月の引力**にひっぱられて**いっぱい**出ているので、ズボンのチャックが見えてしまいます。そこを**マジック**で黒く塗っているのですが、満月が近くなると、いつもより**濃く**塗るのだそうです。

➡颯爽とカメラの前に立ったスガスガしいクマさんこと篠原勝之

㊂おわび

先月12月号で「無可有町から」のP.190とP.191が逆になっています。正しくはP.191 P.190の順です。翁二先生、読者の方々にここに証正とおわび申しあげます。

お知らせ

来月号のガロは、2月3月合併号となりますので発売日は1月中旬です。

ノリコの漫画教室

ノリマン

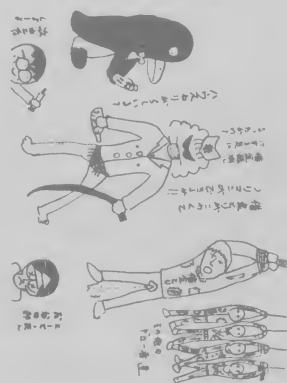
という訳で〝ノリマン〟がはじめてのお正月をむかえます。いつも正月みたいなもんだから、まぁ、どーってことないけど81年もまた一番えぬるぎっしゅで行くわけね。トップを行くってつらいわ　ガハハハハハー。

福岡市のノリコ姫の家来の作品　(上)

テーマとちょっとズレているが、ノリマンの将来が暗示されている。ついに来たか、ノリマンの夜明けが。ガハハ…

鹿児島の蒲生の村の作品　(上)

ワハハハ、このお金は私がいただきます　石ころや　シュワッチなんかでまけるノリマンではない!!

香川県の福家陽介の作品　(上)

そうだ！この不況の嵐の中を生きぬいてゆくにはこれしかない。81年はさですちっくにせめよーか。

香川県の福家雅人の作品　中

ガイコツの谷田部がきいている。あわただしさでビンボーを忘れよーとしているが、そううまくいかないよ。

金沢市のすずきよいちの作品　中

ワー！グラマーでうれしいさですちっくでうれしい… なーんて81年もアホのままか、不安だ….

藤岡市の坪井孝司の作品　中

カッチャンのフトンがななめになっているのが何ともいい。でも寒さしい絵だなー。フィクションではこまるぞ

静岡市の久米泰生の作品　中

感じは出ているけど もう一つと いうところ、カッチャンの表情がいい 次の作品を期待しちゃう

平塚市のうらしま太郎の作品　中

青林堂の残業代は1人肉マン2個 ところが最近1個にへってしまった。だれでもいいから窓から肉マンをほおり なげてくれ〜みんな泣いてよろこぶ。

春日井市の森雄一の作品　中

フフフ、わかっているではないか オヌシ、私の上に立とーとすると コーユーことになる!!

鹿児島の ひろしの村の作品　中

ちょっとまってよ、こんなソバカスでき たんじゃ、私のビボーが大ナシ!! こんなおそろしーソバカス イラン.

長浜市の伊部誠三の作品　中

だいたいここまでもちこたえたのが もう世界の七不思議に入っている. 返答は、どこにでもならあの大三十日

町田市の大阪のブコの作品　?

あのーだいじょーぶでしょうか おたく。青林堂社員一同心配しております。アナタだけは幸せになっていただきたい。

一来月(2.3月合併号)のお題一

〆切り12月13日

新年にむけて ノリマンのポスターを 皆さんに考えていただきたい。ガンバッテネー